

## 2014年 会員の著作物

(2015年7月修正版)

### [1月]

永原歩「歌詞を楽しむ K-POP 講座」、『テレビでハングル講座』2014.1～2014.12、NHK  
出版

中村麻結「現代韓国語の時間副詞<막>について」、『ことばの研究』第3号、pp.1-20、姫路  
獨協大学外国語学部

波田野節子訳「洪命憲・洪起文と『朝鮮王朝実録』」、『朝鮮学報』第230輯、pp.31-66、朝  
鮮学会

山崎亜希子「ソウル方言における語中母音間破裂音の音響音声学的特徴—三項対立を支える  
音響特徴に関する考察—」、『言語・地域文化研究』第20号、pp.121-133、東京外  
国語大学大学院

Katsuo Tamaoka, Nobuhiro Saito, Sachiko Kiyama, Kalinka, Timmer, Rinus G.  
Verdonschot, Is pitch accent necessary for comprehension by native Japanese  
speakers? An ERP investigation, Journal of Neurolinguistics, vol.27, issue1,  
31-40.

### [2月]

野間秀樹編『韓国・朝鮮の知を読む』、クオン

오기노 신사쿠 ‘한국의 다문화 사회 언어교육 정책 방향 연구 -일본의 다문화 사회  
언어교육 정책 사례를 통하여’, “선청어문”, 제 41 호, pp.129-151, 서울대학교  
국어교육연구소

### [3月]

黒澤朋子（「ハン検」教材作成委員会監修）『「ハングル」検定公式テキストペウギ5級』特  
定非営利活動法人ハングル能力検定協会

辻野裕紀「現代朝鮮語の〈n挿入〉に関する一考察—発生論と機能論—」、『韓国朝鮮文化研  
究』13、pp.79-96、東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室

辻野裕紀「アクセント体系の〈計量的非対称性〉をめぐって—中期朝鮮語と朝鮮語大邱方言  
を対象に—」、『言語科学』49、pp.21-36、九州大学大学院言語文化研究院言語研究  
会

朴珍希「目的を表す表現の日韓対照研究—韓国語の『-러 leo』と日本語の『〜に』を中心

- にー」、『文化共生学研究』第13号、pp.165-190、岡山大学大学院社会文化科学研究科
- 長谷川由起子・斉藤信浩「大学の韓国語学習者の学習動機づけー全国の大学6言語学習者アンケート調査の分析を通じてー」、『朝鮮語教育ー理論と実践ー』第9号、pp.36-55、朝鮮語教育研究会
- 波田野節子「李光洙と翻訳ーUncle Tom's Cabin を中心にー」、『韓国朝鮮文化研究』13、pp.1-21、東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室
- 村山俊夫訳『この身が灰になるまで』緑風出版、(吳道燁『시집도록 고마운 사람들아』の日本語訳)
- Kim Uchang and Karatani Kojin, Moderated by Noma Hideki, 'Conversation on East Asian Civilization, Past and Present', "Azalea: Journal of Korean Literature & Culture", Translated by Jeon Seung-Hee, pp.165-191, Korea Institute, Harvard University

[4月]

- 新井保裕「「だけ」と「만」に見られる用法変化の日韓対照研究ー記述研究ー」、『韓国語学年報』第10号、pp.61-103、神田外語大学韓国語学会
- 須賀井義教「해 보자 (やってみよう) ! おさらいハングル」、『まいこちハングル講座』2014.4~2014.12、NHK出版
- 野間秀樹『日本語とハングル』、文藝春秋
- 宮川淳「一書店から感じる業界の現時点の問題点」、『축배 (祝杯)』Vol.3、pp.82-88、宮塚コリア研究所

[6月]

- 野間秀樹『韓国語をいかに学ぶかー日本語話者のために』、平凡社
- 野間秀樹「対照言語学的視座と言語教育ー今日の日韓対照言語学と日本における韓国語教育から」、『日本语言文化研究』第三輯、pp.13-59、延辺大学出版社

[7月]

- 辻野裕紀「現代朝鮮語における〈n挿入〉の実現実態について(1)ー若年層ソウル方言話者を対象にー」、『朝鮮学報』232、pp.1-57、朝鮮学会

[9 月]

永原歩「2. 活用」、『日本語ライブラリー 韓国語と日本語』(沖森卓也・曹喜澈編著)、pp.9-16、朝倉書店

永原歩「5. 形容詞」、『日本語ライブラリー 韓国語と日本語』(沖森卓也・曹喜澈編著)、pp.35-41、朝倉書店

[10 月]

大名力『英語の文字・綴り・発音のしくみ』、研究社

小森和子・玉岡賀津雄・斉藤信浩・宮岡弥生「第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察」、『中国語話者のための日本語教育研究』第 5 号、pp.1-16、中国語話者のための日本語教育研究会

斉藤信浩・玉岡賀津雄「項目応答理論による韓国語語彙能力テストの開発」、『朝鮮学報』第 233 輯、pp.27-61、朝鮮学会

中西恭子「現代韓国語の形成—表記法の確立に向けて」、『現代韓国を知るための 60 章』、pp.228-232、明石書店

波田野節子「李光洙の日本語小説と同友会事件—「萬爺の死」から「心相觸れてこそ」へ—」、『朝鮮学報』第 232 輯、pp.43-77、朝鮮学会

波田野節子「일본어판 오도답과여행을 쓴 것은 누구인가?」、『상허학보(尚虚学報)』42 집、pp.203-229、尚虚学会

노마 히데키(野間秀樹) 엮음 “한국의 知를 읽다”, 김경원 옮김, 위즈덤하우스

[11 月]

長渡陽一「言語内バリエーションの使い分け能力評価基準—二層言語(ダイグロシヤ)アラビア語からの提起—」、『外国語教育研究』17 号、pp.112-126、外国語教育学会

宮川淳・赤尾覺「レインボー通商 思い出の地を訪ねて! 平壤・咸興・七宝山・清津・会寧・旺載山 8 日間の日程表 2001 年」、『季刊 望郷』第 12 号、p.94、レインボー出版

宮川淳・赤尾覺「平壤・七宝山・清津・会寧・羅津・先鋒・琿春・図們・延吉・大連 7 日間の旅 レインボー通商 2000 年」、『季刊 望郷』第 12 号、p.95、レインボー出版

宮川淳「日韓にまたがる裁判で経験した韓国側の主張、行動」、『축배(祝杯)』Vol.4、pp.54-57、宮塚コリア研究所

宮川淳「全国清津会会員、延吉から初の陸路で清津・羅南へ」、『축배(祝杯)』Vol.4、pp.74-76、

宮塚コリア研究所

박종후 訳 “언어유형지리론과 환태평양 언어권—유형지리론으로 탐구하는 언어의 친족 관계”, 역락 (松本克己『世界言語のなかの日本語—日本語系統論の新たな地平』、三省堂、2007年の韓国語訳)

오기노 신사쿠 ‘일본인 학습자 대상 한국어 외래어 교육 연구’, “우리말교육현장연구” 제 8 권 2 호, pp.299-336, 우리말교육현장학회

[12月]

斉藤信浩, 玉岡賀津雄, 「韓国語習得における語彙能力と読解能力の因果関係」、『ことばの科学』第28号、pp.111-123、名古屋大学言語文化研究会

宮川淳 「北遺族連絡会“欺瞞”の墓参旅行」、『拉致と真実』第3号、pp.15-20、星へのあゆみ出版

長谷川由起子 「高等学校第二外国語必修化提言実現に伴う課題」、『複言語・多言語教育研究』2号、pp.87-100、日本外国語教育推進機構

長谷川由起子 「九産大生のための韓国語 E-Learning 『ぐるぐるハンゲル』」の開発、『COMMON』Vol.34、pp.4-13、九州産業大学総合情報基盤センター

長谷川由起子 「韓国の外国語教育政策, 正確に評価すべき」、『日本語言語政策学会ニュースレター』第23号、pp.1-3、日本言語政策学会

村山俊夫 『インスタントラーメンが海を渡った日』、河出書房新社

박종후 ‘일본 대학에서 비전공 한국어 교육의 현황 조사’, “언어와 문화” 제 10 권 3 호, pp.119-139, 한국언어문화교육학회